

平成 30 年 12 月 13 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 上田 隆之
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 細野 宗宏
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト
参加権益の追加取得について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリア連邦において操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）におけるガス生産操業を進めておりますが、今般、当社はトータル社がプロジェクト会社を通じて保有する参加権益の一部（4.0%）を取得し、当社のプロジェクト参加権益(*)の比率が62.245%から66.245%へ増加すること等に合意いたしましたので、お知らせいたします。なお、本件はオーストラリア政府の承認、先買権等を含む契約上の先行条件の充足が契約発効の条件となります。

(*)本プロジェクト権益は以下を含む：

1. WA-50-L鉱区（イクシスガス・コンデンセート田を含む）およびWA-51-L鉱区権益
2. ガスパイプラインおよび下流液化施設等を保有し、液化・販売等を実施する下流事業会社であるイクシスLNG社の株式

本プロジェクトでは、本年10月1日にコンデンセート（超軽質油）、10月22日にLNGの出荷開始に続き、11月16日にはLPG（液化天然ガス）の出荷を開始しております。今後徐々にLNGの生産量を増加させ、プラトー生産達成時には日本のLNG年間輸入量の1割を超える年間約890万トンのLNGを生産する計画です。生産されたLNGのうち約7割が日本買主に供給される予定となっていることから、当社は本プロジェクトを通じて、日本のエネルギー安定供給により一層貢献できると同時に、アジアをはじめとする世界のエネルギー需要に今後も応えていく所存です。なお、イクシスLNGプロジェクトは長期に安定した収益を確保できる優良プロジェクトであり、今回の参加権益の追加取得は、今年5月に公表した「ビジョン 2040」及び「中期経営計画 2018-2022」における目標に合致するものとなります。

当社は引き続き、本プロジェクトに関係するプロジェクトパートナー、地域コミュニティの方々、オーストラリア連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府などのオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、今後は、安定稼働及び早期ランプアップの達成に向けて引き続きまい進する所存です。

なお、本件による当社連結業績への影響は軽微です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：66.245パーセント）としてトータル社（同：26.0パーセント）、台湾中油（CPC、同：2.625パーセント）、東京ガス（同：1.575パーセント）、大阪ガス（同：1.2パーセント）、関西電力（同：1.2パーセント）、JERA（同：0.735パーセント）及び東邦ガス（同：0.42パーセント）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間約890万トンのLNG及び年間約165万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。

最終投資決定(FID)から生産開始までを対象期間とする生産開始に必要な開発投資額は、400億米ドル程度（権益100%ベース）を見込んでおりましたが、生産開始が遅れたこと等により数パーセント程度増加いたしました。

本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。生産に必要な施設の建設作業を経て、2018年7月に生産井からのガス生産を開始し、同10月にコンデンセート及びLNGの出荷を開始、続く同11月にLPGの出荷を開始しました。

特設サイト・イクシス LNG プロジェクト

イクシス LNG プロジェクトの詳細は、特設サイトにてご確認ください：

<https://www.inpex.co.jp/ichthys/index.html>